事業計画名　新たな加工方法による「原板パネルの製作」と、それを活用した「新商品の開発」を間伐材で

間伐材を高付加価値の板材に加工する機械設備を導入し、新たな家具、内装材を創造した

【計画の概要】　国内家具市場では、海外製品と価格競争の厳しい中で更なるコストダウン要求が強く、品質向上など従来よりも多様なニーズ対応が求められている。このため、従来チップ原料や、合板芯材にしか使用されていない国内の間伐材を高付加価値な板材に加工する。その材料を家具や、住宅の内装材として利用する。本事業は、様々な意匠の家具や内装材を作り出せる事業である。加えて資源の有効利用、日本の森林保全にも役立つものづくりである。

事業者の概要

■事業者名　**株式会社新木コーポレーション**



代表取締役　新木 雅章

■代表者名　代表取締役 新木 雅章
■設立年月日　昭和44年1月21日
■所在地　〒689-2201 鳥取県東伯郡北栄町西園350-1
Tel.0858-37-3221　Fax.0858-37-3225
URL : http://shinki350.sakura.ne.jp/shouhin.html
■資本金　30,000千円
■従業員数　38名（平成28年7月末時点）
■工場等　中国工場／中国山東省（臨沂申和益木業有限公司）営業所／東京営業所・中四国営業所
■業務内容　【家具・装備品製造業】一般家具の企画設計・製造・販売、特注家具の設計・製造・施工・販売、室内装飾品（カーテン・カーペットの販売など

企業概要

業務内容、取扱内容

昭和７年鳥取県の由良宿内にて創業し、平成３年に現住所へ移転と同時に「新木木工」から現在の社名に変更。高級婚礼箪笥のメーカーとして昭和４０年代から、関西・関東の営業所を拠点に販路を拡大し、日本全国の大手家具店、小売店、百貨店、全国展開のホームセンター、ネット販売会社、ゼネコン等が主な取引先となっている。

当社の強み

現在では、家具全般の製造を手掛け、住環境の変化の中、近年は、特に造付家具・ベッドフレーム・現代仏壇の売上が増加している。
また、１０年前より特注家具部門を設け、高い技術力と強みである企画・製造・施工・営業力を生かし、ホテル・福利厚生施設・学校等の物件の備え付け家具事業を、県内はもとより、関西圏にまでエリアを広げている。

本事業の取組内容・概要

試作開発、設備導入のきっかけ

現状の課題

■国内家具市場では、ヨーロッパからハイクォリティ製品やアジアの低価格商品の輸入家具が広く浸透し、海外製品と価格競争の厳しい中で更なるコストダウン要求が強く、品質向上など従来よりも多様なニーズ対応が求められている。

当社の課題

■特注品・オーダー品のコストが高く、国内生産品コストが市場価格に合っていない。
■家具販売店が、需要の減少や海外品の取り扱いにより国内メーカーの扱いを減少させて来た。
■住環境・消費者の様々なライフスタイルの変化による家具ばなれ。
■製造部門の１人当たりの生産性の低下
■既存得意先・既存商品群では、売上増加が見込めない。
■婚礼メーカーは、淘汰されたが、供給よりも需要がさらに減少している

課題解決の取り組み

■価値的には低い国内の杉やヒノキなどの間伐材の欠点をきれいな木目の高級材で覆うことにより付加価値の高い材料に甦らせ、高級家具や建材に加工する。



原板として商品に使用される鳥取県産檜の間伐材

事業に期待される効果

①製品の高付加価値化
再生した原板を加工して付加価値のある商品を企画販売することにより売上拡大・付加価値の向上に繋がる。
②モノづくりの多様化
高価な銘木材を少ない体積のみの使用に抑えることでデザインや場所・品種に制限がなくなり、多種多様な商品に活用できる。
③生産の効率化とコストダウン及び品質の向上

導入設備

機械装置名	利用方法
ホットプレス	杉間伐材の表面に銘木単板を貼るため
自動直線縁貼り機	杉間伐材やパネル部分の縁を貼るため



高品質で安定した生産が可能な自動直線縁貼り機



原板に様々な銘木パネルを貼り合わせるホットプレス機

事業実施内容

■基本的な仕組み
原板パネルの組み合わせ構想図



原板に天然のウォールナットを貼り合わせた加工済み材料の断面

本事業の成果

試作品作成の概要とその成果

■今回の開発・設備投資の内容（設備投資などを写真紹介）
試作工程を写真、図で表す



天然杢ウォールナットをふんだんに使用した試作品フェアリー



床板のデザインを工夫した改良版のドイル

新工法による加工時間の短縮

■検証サンプルでは、従来工法と新工法を比較すると約85%の時間短縮の結果が見られた。

展示会のバイヤー評価

■展示会に出展時のバイヤーの評価では、やや改善を望む声もあったが、新たな取組として高い評価を得、今後の商品化の手ごたえを掴んだ。

今後の展開と展望

①市場ニーズと新市場開拓
国産家具の市場ニーズが、高まっており、今後もその傾向は続くと思われる。この波に乗り国産家具の需要増加と海外製品との差別化を図る。

②原木材料供給減少による再生木材を主原料とした家具の増加
今後、原生林からの木材の供給が減少することが予想され、再生木材である間伐材・繊維板を用いて作られる家具の需要の増加が期待できる。

③多種多様な商品開発と積極的な展示会参加による販路開拓
素材として多種多様な商品へ加工できることから、新規商品の開発を行うとともに、全国の展示会へ積極的に参加し、新たな販路を開拓していく。